

（案）

令和6年11月1日

鶴ヶ島市長 齊 藤 芳 久 様

鶴ヶ島市まちづくり審議会
会 長 石 井 雅 章

第6次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画の策定について（答申）

令和6年4月12日付け鶴政第73号で諮問のありました標記の件について、本審議会では、各委員の多様な経験を活かし、集中的かつ自由闊達な議論を重ねてまいりました。

後期基本計画の策定及び推進に当たっては、下記の事項を十分に尊重いただき、市の将来像「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」の実現に向けて、最善を尽くされることを希望して、ここに答申します。

記

1 総合計画全般について

後期基本計画は、第6次総合計画の基本構想を具現化するため、今後、5年間で進めていく具体的な取組を示すものです。

後期基本計画の策定に当たっては、本市を取り巻く様々な社会状況の変化を踏まえ、市民意見を的確に反映した計画としていただき、すべての市民が安心して暮らし、幸せを感じられるようなまちづくりを進めていただくことを望みます。

2 重点戦略について

将来にわたって、市の活力を生み出す原動力となるのは、人と人、人と地域といった様々なつながりや交流です。

コロナ禍の影響や人口減少、少子高齢化などの時代の流れの中で、こうしたつながりに変化が生じ、希薄化していることが懸念されることから、この点については、本審議会においても特に審議をしてきたところです。

後期基本計画においては、3つの重点戦略の着実な推進を前提とした上で、より一層、市民と地域、行政が多様な関わりを持ち、それぞれが地域の中で自発的に役割を担い、誰もが自分らしく地域の中で働き、生活ができるよう、様々なつながりを最大限に活かした事業展開を望みます。

また、人口減少や少子高齢化が進行する中であっても、魅力ある地域社会をつくり、市の活力を維持できるよう、若い世代や子育て世代の定住や転入促進につながる具体的な取組の実施を望みます。

市内外を含めた多様な人々の交流機会の創出をはじめ、あらゆる分野において、市民や企業などと連携し、ともに手を組み、協力してまちづくりを行う視点を大切にして、各分野の取組を横断的に進めていただくことを望みます。

3 まちづくりの推進に当たって

多くの人々が本市に興味を持ち、関わり、つながるためには、本市が持つ魅力を市内外で共有する必要があります。様々な地域資源などを活用し、本市の「住みやすさ、暮らしやすさ」などのブランドイメージを確立し、多くの人々から選ばれるまちとなるよう、取り組んでいただくことを望みます。

最後に、次代を担うこどもたちの活躍を支え、育むことは重要と考えます。こどもたちをまちづくりの大切な一員として捉え、こどもたちの考えや意見を市政に反映していただくことを期待します。

4 計画の進行管理について

計画は、策定することが目的ではなく、実行し、施策の進捗状況や社会経済情勢の変化などを踏まえて、必要な見直しを図りながら進めるべきものです。

後期基本計画の着実な推進とあわせて、各事業の評価や指標の検証など、適切な進行管理を行うとともに、市民満足度や市民ニーズの的確な把握に努め、時代に即した柔軟な総合計画とし、将来像の実現に向けて取り組んでいただくことを望みます。